春日神殿餝馬圖　全

51

国立国会図書館　タイトル『春日神殿餝馬圖』　請求記号　ほ-51

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『春日神殿鍫馬画』 請求記号 ほ-51

ガラス使用

東京図書館藏
故柳原芬楚納本
柳原家藏

春日神殿餝馬画

一 馬口附ハ着用ハかり衣さし貫と見え申ハかり衣さし貫
ハ花形或ハ楽器ハ類ハ事ゟみるハ付ケ物と申ハ由此間
ハ傳承之ハ是ハかゝるまて掛へ付るよし尤真鍮の類に
て ハ座ハや兎角金色なるものに ハ座ハ代
貞丈答附物牡丹ハ花藤の花なとハ作り花を金箔
にて たゝハ物と見えハ都ハ付物ハ時によるる人ハ好まて
風流に致しハ物故定法ハ無之物と見くハ楽器ハ類
も紙などまて作り彩色しあるものなるゝ衣服にとち
付ハ物ゆへおもしてハ付ハ目ハ敷也且其日一日ハ晴に
てかけなるし此物ゆへ念ハ入ハ不及物成ゝ
一 同是人ハ冠おいかけ細纓是人ハ立烏帽子なり此番ハ何
とゆへハ太刀ハ萠黄柄藍革をつきなり如何に ハ座ハ代
貞丈答冠きこるハ近情此番長と云宮人なるゝ柄

に藍革付しるハ衛府の太刀也左鳥帽子きたるハ太刀
代をすべ是ハ馬寮の舎人成るべし
一みたき緒の沓ハ見うまておしらへ中ハ代但この沓二通り
と見え中ハ二色にみたき緒の沓と申ハ代
貞丈答沓を見うまて作りハ一ツハ三たき緒の沓と云ふ
一ツハ笹の葉の如くなるその上ハこれをハ舌地沓又六葉
沓と云物具抄に見へ候あり
一馬ハ所毛にても用申ハ代此繪号ハ連綴とくり毛と見え
申ハいかに語座ハ代
貞丈答馬の毛ハ定らぬなる事し
一馬の面にかけ候ハ鞦頭銀面可申ハ由先日語傳承申ハ
耳の間の〈如氏成その八津の所ふくろと申ハ由語傳承申ハ
つの袋ハ切しまておしらへ中ハ由所きをとて語座ハ代其
下に花形のやうなるものを菖蒲ふくと申ハ由語傳承申ハ

菖蒲がた所にておしらへ中ハ代
貞丈答銀面ハ銀にて作りたるものと見ゆ角袋ハ錦に
て作る右両ハ諸鞍日記にて語考可被成ハ菖蒲形と
かりまて作り色々の帛にて包むなるべし
一首の下のどにさがるものを首ふさと申ハ由語傳承申ハ所
にていかやうにおしらへ中ハ代
貞丈答諸鞍日記に頸総とておとういの下に付るものを
色々の玉を貫きて下ケ候り長サ貳尺余なりと云く
鉄を風鐸の如くかりまて作り其ふちに穴をあけ
て瓔珞ハ候ふ也又其中より玉を貫き垂をて佩
玉の如くなる物ありて先に鈴ハ付ケ候り
一くりとハいかに語座ハ代
貞丈答鉄にて作るべしハ不詳形一ツハ杏葉一ツハ蔟薬
衛之

一 手綱ハ布也鞭とやらん由何某の家の説に紫見つけよと
先をさげまろし染る由右伝書ニハ猶左様に心得可申候
貞丈答白と色とある儀ハいかゞ
一 さしなはハ白布を三くりよりあはせ用ゆさし縄に二色有
さし縄ひきなはと云よし右伝書中に今式鞍の指縄ハ絵と心得べし
貞丈答此鞍の図にハ引綱に并て見ゆ引さし縄あり
一 むながいは尾かけに并ぶものハ八子とぞ云よし四方ノ手にて并ると伝
伝書ニハ単器考図にぞあるよし絵にて作り申すべく候
貞丈答革にて作り申候
一 おもがいむながい尾かいは共に絵にて縫くり申すべく候
貞丈答年々革にて作り上なおしまして色むよし諸
鞍日記に見へあり鞦と云中にむながいも出てゐるあり
貞丈云往古ハ鞦字ニテムナガイ尻ガイヲ云也今ハ別ニ心得テ井ルナリ
一 尻がいの事見にある物ハ名不分明尾袋のかざりやと見ゆ

なるよし右伝書ニハ是又絵にて出しらへ申候
貞丈答諸鞍日記に尾袋と云ふ尾を唐尾に取て尾筒
に入てくゝる也此袋の左右に蝶のやうなる物付てあ
なる也と云ふ此蝶のやうなる物を何と云ハ帰鞍器の尾の
上にある物にて尾袋のかざり也
一 尾袋ハいかゞ心得申へく候
貞丈答尾袋絵にて作ると云事不詳候
一 尾かいの上に雲珠とてかざりにて出しらへなる宝珠形のもの
のありと右伝書ニハいかゞ心得可申候
貞丈答金にても木にても作りとも有 貞丈云宝珠形木ニテ作リ梅ノ實トて云ふ有
一 むながい尾かいに杏葉とふ物作るよし杏葉ハかざりにて致
し切に色むよし右伝書ニハ猶左様に心得可申候
貞丈答杏葉形ハ作りて打付て何も四寸四寸に付ありと
諸鞍日記に見へありかざり也此形色々にて紐にて結む

あり

一 鐙ハ所々にかつくよし 臣傳兼ハ弥左頼ニ心得可申候

貞丈答 鐙不々ニ成る繪のぬし

一 鞍ハ唐鞍のよし 臣傳兼ハ弥左頼ニ心得可申候

貞丈答 鞍不祢ハ鉾鞍也 諸鞍ハ祀臣考ハ一し担解

の餝ハ無名を切る鞍と云ハ鞍不祢ハ云ニ非ス

一 馬の脊ハ此上ニ切けるハ大滑と云 是をハ何ニて作り申候

貞丈答 赤なめし革にて大ろこ何をりの頼ニ出しらへ

馬のたゞこに並事也

一 大なめ此上ニ切けるハ蝶脊と云由 臣傳兼ハ是も何ニて作り

候

貞丈答 蝶脊又脊蝶とも下ニ錦を表にして裏ニ布也

中ニハ東席を入也 貞丈云東席ハ蝶ノ表ノ頼成ハ物之カラムシロト云 是也ト傳フト云ニ

一 何ふとハ輪鐙也 ろ祢にて いろなし何にて 臣ニ中候

貞丈答 切ひて作り赤なめし革にて つゝみ申候

一 たゞびハいろ心得可申候

貞丈答 たゞびむなかいなど同しと心得可申也

右大かい右ニ通と心得可申候 無る餝馬ハ具ニしらへ方今

ハ絶て不分明也 其ハ委しき不知ハ由 白石先生も云申候

由 臣傳兼りハ

貞丈答 製作詳ニ志まぬよし也へ恒成事申度

がたくハ

一 無く餝馬と申ハ往昔何の時用申候 代式正の臣事ニハ

必ある事と臣傳兼ハ今ハ多えたくおこなられ候よし

今ことに祀ハ春日神殿左右社戸ニ画あり 此繪後三条 七十一代

院の臣字ニ如く不也よし 臣傳兼ハ此度此繪馬うつ

し並ハ事 臣評容我蒙り祝忌不少覚申候

貞丈答 餝馬ハ古代蕃客来聘為時迎の馬ニも用

又御禊行幸賀茂祭の使と家用也無時の用ニ立
ゑゑ事ニ相叶ハ

問 常政
答 貞丈雅丈也

国立国会図書館　タイトル『春日神殿餝馬画』 請求記号 ほ-51
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『春日神殿餝馬画』 請求記号 ほ-51

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『春日神殿餝馬画』 請求記号 ほ-51

ガラス使用

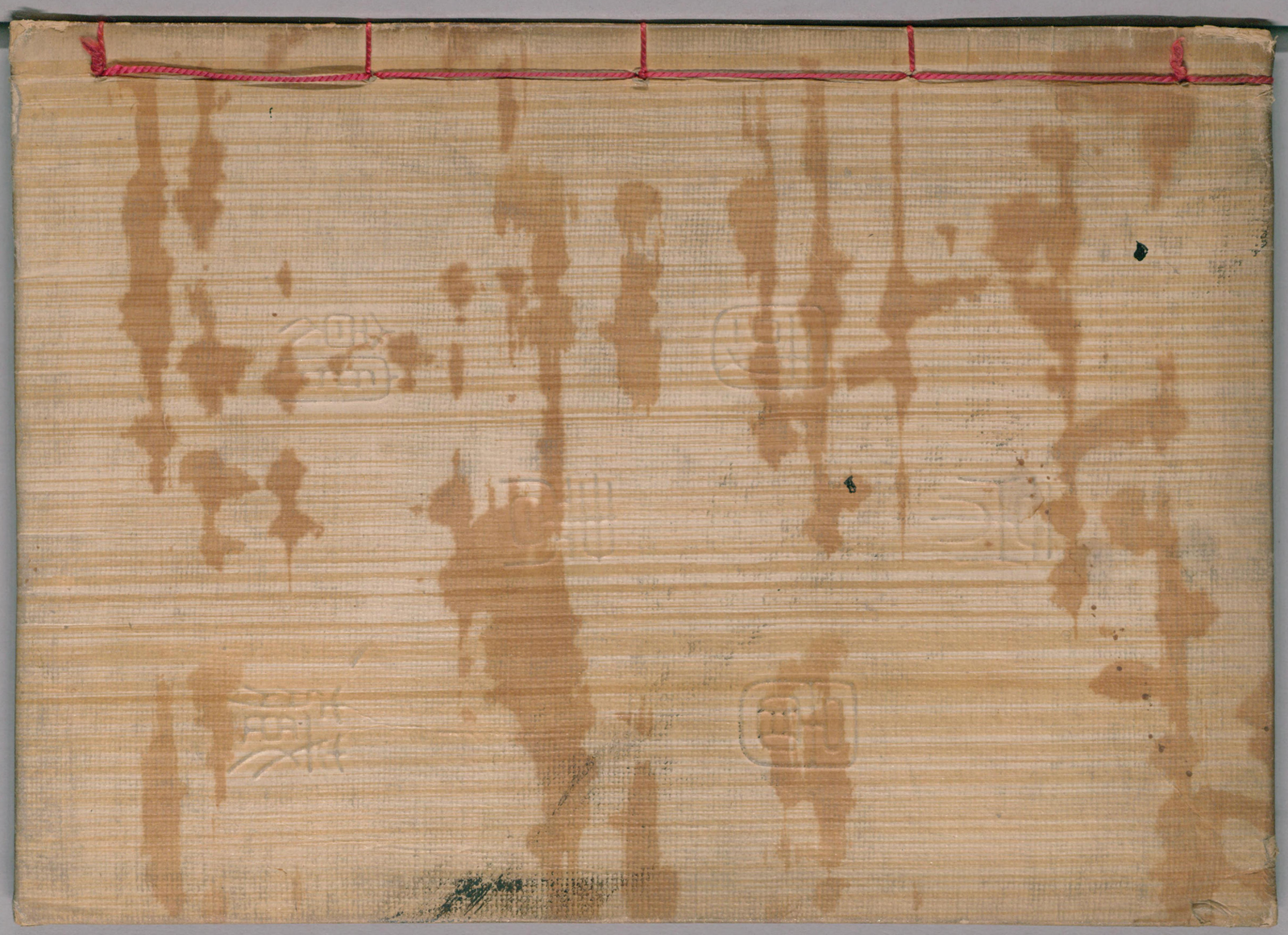
ガラス使用
国立国会図書館　タイトル『春日神殿餝馬画』　請求記号 ほ-51

ガラス使用
国立国会図書館　タイトル『春日神殿餝馬画』　請求記号　ほ-51

ほ
51

国立国会図書館　タイトル『春日神殿鍫馬画』 請求記号 ほ-51

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『春日神殿餝馬画』　請求記号　ほ-51

ガラス使用